

特別講演

2007 年 10 月 12 日（金）16:00~18:00

特別講演 I 「自然免疫系による結核感染防御機構」

大阪大学大学院医学系研究科 竹田 潔 教授

特別講演 II 「熱帯における腸管感染症の総合的理解を目指して」

長崎大学国際連携研究戦略本部 山城 哲 教授

一般演題プログラム

10 月 12 日（金）12:00~15:55

細菌 I 12:00~13:10 座長：谷口初美（産業医科大学）赤池孝章（熊本大学）

1. 大腸菌 L-form の EcL 株と NC7 株の spirosome 発現の差について

○又吉 盛健、吉家 清貴、小田 紘

（鹿児島大学大学院・医歯学総合研究科・感染防御学）

2. 病原性大腸菌における RTX の保有状況および溶血毒素としての可能性

○村瀬一典¹、大岡唯祐¹、井口 純²、ASADULGHANI¹、小椋義俊^{1,2}、
中山恵介¹、林 哲也^{1,2}

（¹宮崎大・医・微生物、²宮崎大・フロンティア）

3. *H. pylori* VacA によるマクロファージ系細胞 U937 からのインターロイキン-8 産生機序の解析

○久恒順三¹、中山真彰¹、磯本一²、倉園久生³、平山壽哉¹

（¹長崎大・熱研・病原因子、²長崎大・医、³帯広畜産大・獣医）

4. *Streptococcus pneumoniae* の H₂O₂ 産生性オキシダーゼの活性動態と

その調節機序の解析

○谷合 啓明、石 政維、飯田 健一郎、中山 宏明、吉田 眞一

（九大院・医・細菌）

5. *Streptococcus pyogenes* の lactate oxidase (LCT) 遺伝子発現の解析

○飯田健一郎¹、石政維¹、齋藤光正²、中山宏明¹、吉田眞一¹

（九大院・医・¹細菌学、²成長発達医学）

6. 歯周病関連細菌 *Porphyromonas gingivalis* 病原因子ジンジパインの機能発

現に関連する遺伝子の検索

○雪竹英治、佐藤啓子、中山浩次
(長崎大・院・医歯薬・口腔病原微生物学)

7. *Porphyromonas gingivalis* ATCC33277 株の Conjugative transposon による
接合伝達

○内藤真理子、佐藤啓子、雪竹英治、庄子幹郎、中山浩次
(長崎大・院・医歯薬・口腔病原微生物学)

ウイルス I 13:10~14:00 座長：西園晃（大分大学）、小林信之（長崎大学）

8. HTLV-1 持続感染細胞におけるナフタレン誘導体 JTK-101 の Tax 依存性ウイルス
複製の抑制

○馬場昌範¹、王 欣¹、施 敏イ¹、岡本実佳¹、藤澤順一²、田中勇悦³、出
雲周二¹、池田 了⁴

(¹鹿児島大学大学院医歯学総合研究科、²関西医科大学、³琉球大学医学部、
⁴日本たばこ産業)

9. 麻疹ウイルスワクチン株の培養細胞馴化による弱毒化の分子基盤— ポリメ
ラーゼとプロモーターの変異の意義について —

○竹田誠、田原舞乃、高山舞、柳雄介
(九州大学大学院医学研究院ウイルス学)

10. パラミクソウイルスのマトリックス蛋白とアクセサリー蛋白による転写・
複製調節機構の解析

○白銀勇太¹、竹田誠¹、中津祐一郎¹、岩崎正治¹、石黒信久²、菊田英明³、
柳雄介¹

(¹九州大学大学院医学研究院ウイルス学、²北海道大学医学部小児科、
³東栄病院)

11. CCR5 の取り込みによる HIV-1 の V3 loop 依存的な感染性低下の解析

○門出数精¹、遊佐敬介¹、前田洋助¹、田中勇悦²、原田信志¹

(¹熊本大学医学薬学研究部感染防御学分野、²琉球大学医学部地域環境医科学
講座免疫学分野)

12. ヒト T 細胞株の HIV-1 感受性の解析

○前田洋助、遊佐敬介、原田信志
(熊本大学大学院医学薬学研究部感染防御学分野)

休憩 14:00~14:10

細菌 II 14:10~15:00 座長：中山浩次（長崎大学）、林 哲也（宮崎大学）

13. カンジダのクオラムセンシング機構初期段階での遺伝子発現

○長 環¹、豊田美香¹、青山俊弘²、中山浩伸³、小倉理恵子¹、上西秀則¹
（¹福岡歯科大・感染生物学、鈴鹿高専・²電子情報工学、³生物応用）

14. 感染防御における一酸化窒素の新しいシグナル伝達機構の解明

○澤智 裕¹⁾、Mohammad Hasan Zaki¹⁾、藤井重元¹⁾、岡本竜哉¹⁾、小林 聡²⁾、
山本雅之²⁾、居原 秀³⁾、有本博一⁴⁾、赤池孝章¹⁾
（¹熊本大・院・医薬・微生物学、²東北大・院・医・生化学、³大阪府立大・
院・理・生物化学、⁴東北大・院・生命科学）

15. リステリア感染に対する自然免疫応答における IL-17 産生 gd 型 T 細胞の重要性

浜田 聡^{1,2}、○梅村 正幸^{1, 3}、田中 健照¹、塩野 健¹、矢作 綾野^{1, 3}、
Dirala Mst. Begum¹、大城 清哲^{1, 4}、岡本 祐子^{1, 3}、松崎 吾朗^{1, 3}
（¹琉球大・遺伝子セ・分子感染防御、琉球大・院医・²育成医学、³感染制御
工学、⁴病態消化器外科）

16. 結核菌肺感染における免疫応答の遅延と抑制性サイトカインの影響

○矢作綾野^{1,2}、梅村正幸^{1,2}、田村敏生⁵、Mst. Dilara Begum¹、浜田聡^{1,3}、
大城清哲^{1,4}、岡本祐子^{1,2}、刈米アイ⁵、高津聖志⁵、松崎吾朗^{1,2}
（¹琉球大・遺伝子セ・分子感染防御、琉球大・院医・²感染制御工学、
³育成医学、⁴病態消化器外科 ⁵東大・医科研・免疫調節）

17. TLR シグナルを活性化する *Mycoplasma pneumoniae* 由来リポタンパク質の分離同定、及び in vivo における炎症惹起能の検討

○清水 隆、木田 豊、桑野 剛一
（久留米大学医学部感染医学講座）

ウイルス II 15:00~15:50 座長：馬場昌範（鹿児島大学）、小原恭子（熊本大学）

18. ウイルスゲノムの核外輸送におけるインフルエンザウイルス NS2 タンパク質の機能解析

○清水哲平¹、滝沢直己^{1,2}、永田恭介³、小林信之^{1,4}
（¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、²長崎大学国際連携研究戦略本部

- ³筑波大学大学院人間総合科学研究科、⁴（株）AVSS 中央研究センター）
19. インフルエンザウイルスマトリックス蛋白質(M1)結合宿主因子、Hsc70 とウイルス蛋白質の挙動
○野田彩衣子¹、渡辺健¹、塚原富士子²、丸義朗²、北里海雄¹、小林信之^{1,3}
（¹長崎大学院・医歯薬総合、²東京女子医大・医、³（株）AVSS・中央研）
20. Hsc70 がインフルエンザウイルス RNP の核外輸送に関与する
○渡辺健¹、滝沢直己^{1,2}、塚原富士子³、丸義朗³、北里海雄¹、小林信之^{1,4}
（¹長崎大・医歯薬、²長崎大・国際連携研究戦略本部、³東京女子医大・医、⁴（株）AVSS・中央研）
21. 培養細胞におけるベータノダウイルス宿主域の検討
足立圭¹、一ノ瀬亨¹、○滝沢直己^{1,2}、渡辺健¹、北里海雄¹、小林信之^{1,3}
（¹長崎大学大学院医歯薬総合研究科、²長崎大学国際連携研究戦略本部、³（株）AVSS 中央研究センター）
22. ベータノダウイルス細胞内侵入機構の in vitro における解析
○一ノ瀬亨¹、足立圭¹、滝沢直己^{1,2}、渡辺健¹、北里海雄¹、小林信之^{1,3}
（¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、²長崎大学国際連携研究戦略本部、³（株）AVSS 中央研究センター）

休憩 15:50~16:00

特別講演 16:00~18:00

懇親会 19:10~ （於：長崎パークサイドホテル）

10 月 13 日（土）9:10~12:20

細菌 III 9:10~9:50 座長：小田 紘（鹿児島大学）

23. EspB 分泌における界面活性剤による影響
○仲宗根 昇、トーマ・クラウディア、比嘉直美、鈴木敏彦
（琉大大学院・病原因子解析学）
24. *Legionella pneumophila* Philadelphia 1 株のグルコース代謝が細胞内増殖に与える影響について
○原田 英治、飯田 健一郎、中山 宏明、吉田 眞一
（九大院・医・細菌）

25. らい菌の培養

○天児和暢、谷合啓明、松岡正典*、飯田健一郎、吉田真一

(九大院・医・細菌学、*) 国立感染症研究所ハンセン病研究センタ)

26. 乳幼児における胆汁酸 7 α -脱水酸化活性と腸内フローラ構成菌との関連

○高嶺房枝

(琉大・医・保健・病原体検査学)

ウイルス III 9 :50~10:30 座長：高瀬公三（鹿児島大学）

27. ウシウイルス性下痢症ウイルスを用いた抗フラビウイルス薬の探索

○酒井正史¹、岡本実佳¹、後藤志典¹、馬場千晶¹、王 欣¹、後藤 寛²、
渡士幸一²、下遠野邦忠²、馬場昌範¹

(¹鹿児島大学大学院医歯学総合研究科附属難治ウイルス病態制御研究センター抗ウイルス化学療法研究分野、²京都大学ウイルス研究所ヒトがんウイルス研究分野)

28. 骨髄系樹状細胞が狂犬病ウイルス感染成立に及ぼす影響

○後藤和代、塩田星児、伊波英克、アハメド カムルディン、西園晃
(大分大学医学部微生物学講座・大分大学総合科学研究支援センター)

29. ベトナム北部の蚊からの Banna virus 近縁ウイルスの分離

○鍋島 武、Parquet Maria del Carmen、余 福勲、Posadas Guillermo、
井上真吾、長谷部 太、森田公一
(長崎大学熱帯医学研究所分子構造解析分野)

30. Emergence of serotype G9 rotavirus in Turkey

○Kamruddin Ahmed¹, Gulendam Bozdayi², Bora Dogan², Buket Dalgic,³,
Ilknur Bostanci⁴, Sinan Sari³, Nergis Oner Battaloglu⁴, Seyyal
Rota², Yildiz Dallar⁴, Akira Nishizono⁵, Osamu Nakagomi⁶

(¹Division of Infectious Diseases, Institute of Scientific Research, Oita University, ²Department of Medical Microbiology, Faculty of Medicine, Gazi University, ³Department of Pediatric Gastroenterology, Faculty of Medicine, Gazi University, ⁴Department of Pediatrics, Ministry of Health Ankara Training and Education Hospital, ⁵Division of Microbiology, Faculty of Medicine, Division of Molecular Epidemiology, ⁶Nagasaki University Graduate School

休憩 10:30~10:40

細菌 IV 10:40~11:30 座長：吉田眞一(九州大学)、桑野剛一(久留米大学)

31. 抗生剤が腸内細菌叢に与える影響

○諸富伸夫¹、中村祥子²、福田和正¹、谷口初美¹

(¹産医大・医・微生物学、²福岡県保健環境研究所病理細菌課)

32. 渡久地港におけるデロビブリオ類縁細菌 (BALO) と腸炎ビブリオの生態

○熊澤教眞、豊里 恵

(琉球大学熱帯生物圏研究センター感染生物学研究領域)

33. 微生物群集構造解析による諫早湾環境経時的変動の評価

○廣瀬和之¹、渡辺健¹、北里海雄¹、小林信之^{1,2}

(¹長崎大学大学院医歯薬総合研究科 感染分子研究室、²AVSS Central Research Center)

34. 網羅的細菌叢解析により救命に至った重症呼吸不全の一例

○川波 敏則^{1,2}、福田 和正¹、小川 みどり¹、谷口 初美¹

(産医大・医・微生物学、²同呼吸器病学)

35. *Helicobacter cinaedi* 主要抗原組換え蛋白質の作製とその血清診断への応用

○岩下 博文¹⁾、藤井 重元¹⁾、岡本 竜哉¹⁾、澤 智裕¹⁾、正木 孝幸²⁾、
河村 好章³⁾、赤池 孝章¹⁾

(¹⁾熊本大・院・医薬・微生物学、²⁾(財)化学及血清療法研究所品質管理部・臨床研究センター、³⁾愛知学院大・薬・医療薬学科・微生物学)

ウイルス IV 11:30~12:20 座長：片峰茂(長崎大学)、前田浩(崇城大学)

36. ヒトリンパ球 NOD/SCID マウス (huPBL NOD/SCID) を用いた組換え麻疹ウイルス評価系の構築

○佐藤正明¹、斎藤誠¹、田中康介¹、岩永寿真子²、岡田誠治²、甲斐知恵³、
小原恭子¹

(¹熊本大学大学院・医学薬学研究部・感染症阻止学寄附講座、²熊本大学大学院・医学教育学部・エイズ学研究センター予防開発分野、³東京大学

医科学研究所・実験動物研究施設)

37. C型肝炎ウイルスにおける肝外病変モデルマウスの作製

○笠間由里¹、田中康介¹、佐藤正明¹、斎藤誠¹、桑原和彦²、阪口薫雄²、
小原道法³、小原恭子¹

(¹熊本大学大学院医学薬学研究部感染症阻止学寄附講座、²免疫学分野、
³都臨床研)

38. 筋胃びらん由来鶏アデノウイルスを抗原としたモノクローナル抗体(Mab)
の作製およびその性状

○河野友紀¹、田原口智士¹、太田秀幸²、高瀬公三¹

(¹鹿児島大学・獣医微生物、²化血研)

39. HIV-Gag 組み込みワクチンインフルエンザウイルスの開発

○森田繭子¹、滝沢直己^{1,2}、永田恭介³、小林信之^{1,4}

(¹長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、²長崎大学国際連携研究戦略本部、
³筑波大学大学院人間総合科学研究科、⁴(株)AVSS 中央研究センター)

40. デング患者血液におけるデングウイルスの標的細胞

○長谷部太^{1,6}、Michael O. Baclic²、Leonara T.S. Gervacio²、Corazon C.
Buerano³、Ronald R Matias²、Filipinas F. Natividad²、Nguyen Thanh
Hung⁴、Tran Khiem Hung⁵、Vu Thi Que Huong⁴、木下一美⁶、井上真吾⁶、
森田公一⁶

(¹長崎大学国際連携研究戦略本部、²Research and Biotechnology Division,
St.Luke's Medical Center, Philippines, Institute of Biology,
³College of Science, University of the Philippines, ⁴Department of
Infectious Diseases, Pediatric Hospital No.1, Ho Chi Minh, Vietnam,
⁵Arbovirus Laboratory, Pasteur Institute, Ho Chi Minh, Vietnam, ⁶長
崎大学熱帯医学研究所分子構造解析分野)